

受賞作品

- 01 笹島高架下オフィス [名古屋市千種区下広井町]
- 02 瀬戸永泉教会 [瀬戸市杉塚町]
- 03 あかばねこども園 [田原市赤羽根天神]
- 04 星野神社 覆殿【石場建て・伝統的構法】 [豊川市平尾町]
- 05 ホテルインディゴ犬山有楽苑 [犬山市大字犬山字北古券]
- 06 三菱UFJ銀行名古屋ビル [名古屋市中区錦三丁目]
- 07 東山元町ファサード [名古屋市中区東山元町]
- 特別賞 08 一宮の路上建築群 [一宮市栄三丁目(銀座通りの道路上)]

良好なまちづくりを進めていくためには、建築物及びまちなみが地域環境の形成に積極的に関わり、一定の社会的役割を果たしていくことが重要であるという認識の下、募集条件に適合しているもののうち、良好なまちなみ景観の形成や潤いのあるまちづくりに寄与する等、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる建築物又はまちなみで、次の基準のいずれかに適合し、かつ社会的貢献度の高いものを選考する。

選考基準

1 地域における新しい建築文化の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 新しいまちなみの形成を先導し、モデルとなるもの。
- デザインに優れ、地域環境の形成又は新しい地域環境の創造に寄与しているもの。
- 周囲への配慮がなされ、地域の魅力を高めているもの。

2 地域のまちなみに調和し、魅力的な景観の形成に寄与しているもの。

(以下例示)

- 地場産品を活用する等、地域の風土を生かし、地域文化の継承に寄与しているもの。
- まちなみに調和し、地域の特色ある景観を創造しているもの。
- 建築協定等の住民の主体的な活動や総合的な計画等により、まちなみ景観が形成されているもの。

3 魅力と潤いのある空間の創造に寄与しているもの。

(以下例示)

- 緑化、せせらぎ等の、地域に魅力と潤いを与える空間を創出しているもの。
- 通り抜け空間や開放ギャラリー等の、地域コミュニティの形成に寄与しているもの。
- 地区計画等の詳細な整備計画や住民活動等により、良好な地域整備が図られているもの。

4 その他、本賞の趣旨に適合し、地域に貢献しているもの。

選考経過

応募対象	愛知県内で、2017年4月1日から2022年8月20日までに建築又は改修等された建築物やまちなみで、選考基準のいずれかに該当するもの。
応募期間	2022年7月1日から2022年8月20日まで
応募総数	80作品
第1回選考委員会	2022年9月2日 一次選考を行い、20作品を二次選考対象とした
第2回選考委員会	2022年11月1日 二次選考を行い、8作品を決定した (内1作品を特別賞に選定)
表彰式	2023年2月3日

選考委員 (順不同/敬称略/★は委員長)

谷田 真 ★太幡 英亮 夏目 欣昇 船橋 仁奈 満口 周子 向口 武志 濱田 修 安藤 春久 森 哲哉 成田 清康 金田 学	名城大学 准教授 名古屋大学大学院 准教授 名古屋工業大学 准教授 大同大学 准教授 名古屋造形大学 教授 名古屋市立大学大学院 准教授 公益社団法人愛知建築士会 会長 公益社団法人愛知建築士事務所協会 会長 公益社団法人日本建築家協会東海支部愛知地域会 地域会長 愛知県 建築局長 愛知県 都市・交通局長
--	---

主催

愛知県

後援

愛知県市長会
 愛知県町村会
 愛知県商工会議所連合会
 中部経済同友会
 愛知県都市計画協会
 中部デザイン協会

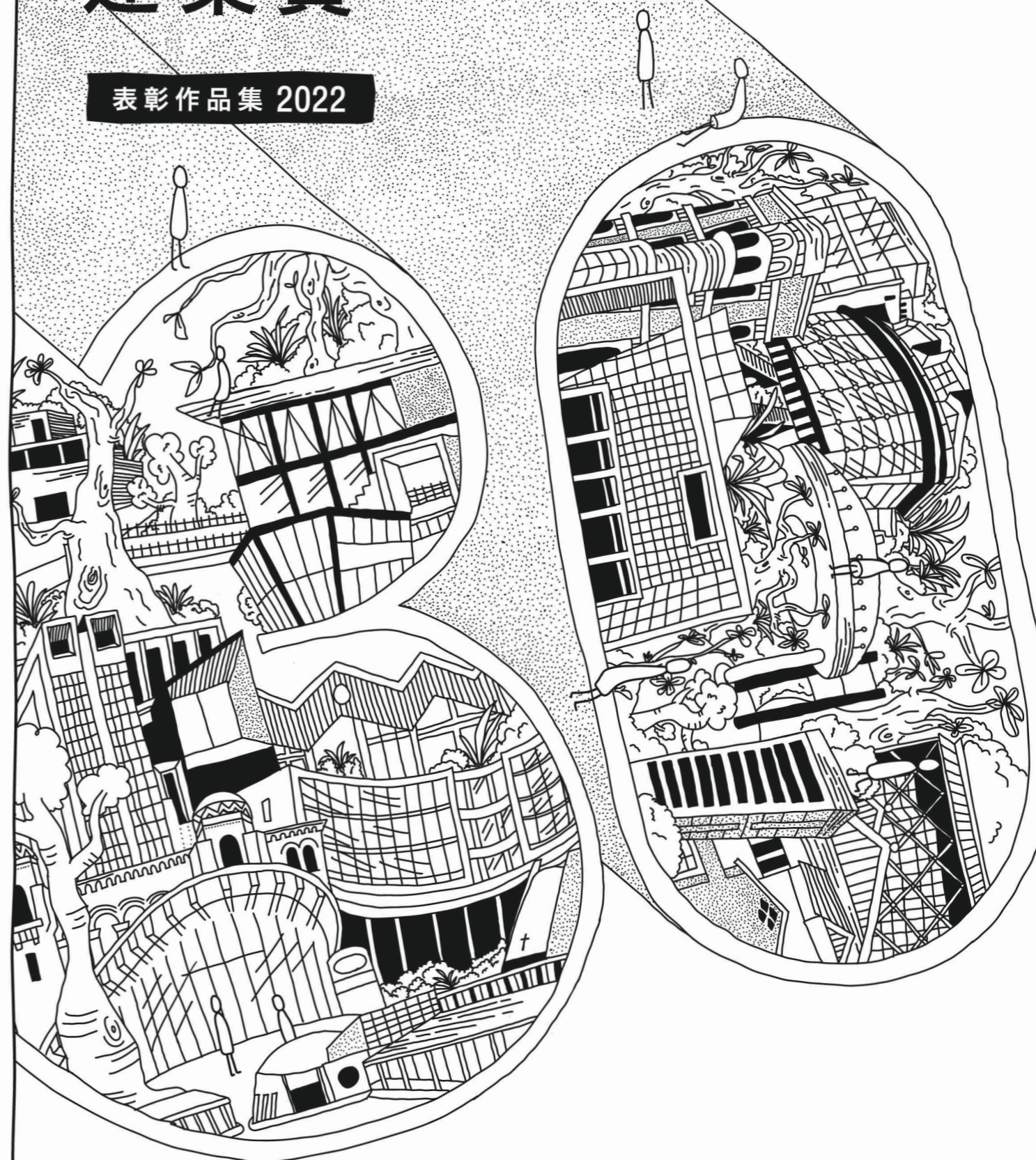
協賛

(公社)愛知建築士会
 (公社)愛知県建築士事務所協会
 (公社)日本建築家協会東海支部愛知地域会
 (一社)愛知県建設業協会
 (一財)東海建築文化センター
 愛知県建築技術研究会

第30回

愛知まちなみ建築賞

表彰作品集 2022



ART DIRECTION+DESIGN 高橋 新・岡本 愛美 (CAMP Inc.) ILLUSTRATION 岡本 愛美 (CAMP Inc.)

愛知まちなみ建築賞について



愛知県知事

大村秀章

| Hideaki Ohmura

「愛知まちなみ建築賞」は、良好な地域環境の形成に貢献していると認められる「建築物」又は「まちなみ」を表彰することにより、「建築物」及び「まちなみ」のまちづくりに果たす意義や役割を啓発し、もって魅力と潤いのある地域環境の形成に資することを目的として、1993年度に創設し、2022年度で節目となる第30回を迎えることができました。

第1回からの、応募総数は、2900件を超え、このうち、208作品が「愛知まちなみ建築賞」を受賞し、中でも特に優秀な11作品は「愛知まちなみ建築賞大賞」に選出されました。県民の皆様方をはじめ、熱心に審査していただいた歴代の選考委員の皆様、後援・協賛団体の方々に深く感謝申し上げます。

第30回も多くの皆様から応募いただきました。建築、都市計画、デザインの専門家、行政で構成する選考委員会において厳正かつ公平な審査を行い、80作品の中から愛知まちなみ建築賞として8作品を表彰することとし、内1作品を特別賞としました。

「高架下活用の新たな可能性を示している事務所」、「時代ごとの特徴的に残されてきた景観を大切に継承しつつ、さらに地域に開かれ調和した形で生まれ変わった教会」、「小さなスケールの保育室を敷地に沿って並べることで

フェンスに囲まれがちな施設を地域に開かれた印象としたこども園」、「市指定文化財の本殿を風雨から守るとともに、地域のランドマーク的存在となっている神社の覆殿」、「周辺の景観・歴史文化の要素を取り入れ、新しいながらも既存のまちなみと調和した魅力的なホテル」、「低層部分を透明ガラスや壁面緑化とするとともに、敷地に面した通りと一体化した誰もが利用できるロビーを設けることでまちに開かれた銀行」、「住宅地の中で小割になっていくものを、逆にまとめあげるデザインで住宅地の新たな景観形成の取り組みを示した堀」、「地域の人々が使っていくことで、まちなみが変わっていく可能性を感じる路上建築群」は、県内各地の地域環境に調和しながら新しい景観を生み出している個性豊かなものです。

受賞した8作品は、その地域の方々が愛し自慢する存在に成長されることは勿論のこと、同じような環境の地域にとっても、魅力ある景観づくりの好事例として大いに貢献されることを期待するとともに、今後とも魅力的な景観の形成を促進し、愛着と誇りが持てる豊かな県土の形成と、魅力ある地域づくりに取り組んでまいりますので、引き続きご理解とご支援をお願い申し上げます。

総評

「建築は凝固した(凍った)音楽だ。建築から受ける気持ちは音楽から受けるものに似ている。」ドイツの文豪・科学者ゲーテによる一節だが、建築を音楽に擬える表現のものは19世紀初頭のドイツロマン主義哲学者によるようだ。この「凍れる音楽」の表現を、軒が作る「リズム」に触れて薬師寺東塔にあてはめたのは明治の美学者、黒田鵬心である。日本で最初の建築批評家とも言われる黒田は、著書「都市の美観と建築」の中で、歴史の浅い日本の近代建築を早速批評するにあたり、都市景観の視点を既に備えていた。一方では建築家による新しい企てに高い価値を置きつつ、他方で建築群の持つ調和や、変化の中の統一について言及し、さらには建築だけでなく、舗装、並木・電柱といった街路の付属物、公園、広告、燈火(街路灯)の重要性にまで言及した点は、最初の批評家にして既に、現代に通じる視点を概ね備えていたと言えるだろう。

さてここで、今年の本賞において、特に議論の対象となった二作品に触れたい。一つは「一宮の路上建築群」である。まちなみ建築賞の評価の対象が必ずしも建築だけでなく、先述の「街路に付属」する様々な要素もまた重要な役割を担うという点を、改めて議論できた。この作品は、単にストリートファニチャーを超えて、立体的な仮設構築物となっているところがポイントで、路上の可能性を拡張しうる実験的試みとして今回、特別賞として評価された。

もう一つは「東山元町ファサード」である。この作品は、建築と街路の両方に属する構築物である「堀」のデザインである。バラバラの意匠の住宅が並ぶ連続した敷地に、連続した堀を用いて統一感を与えた。以上はどれも、建築そのものではなく、街路に付属するその他要素が街並みを構成する重要なピースであって、それらを含めた総体として景観が現象していることに改めて気付かせてくれる。

実は最初に音楽と建築について触れた理由はここにある。「建築」は、その形態をリズムやハーモニーといった音楽的視点で論じられる事が多かったが、「まちなみ」は、他者が作り出した建築や街路との総体として現象するという意味で、アンサンブルであり、誰かがデザインしたものに遅れて呼応するという意味で、ジャズにおけるコール・アンド・レスポンスでもある。過去から積み重ねられた構築物に現代的に反応したインプロヴィゼーションが、自由に創造的に現れる街を想像することは楽しい。

その意味で街並みは、そこに含まれる建築と街路の付属物を含めて、長期的なコミュニケーションの産物である。音楽は数分から数十分のコミュニケーションだが、街並みは数年から数百年のコミュニケーションの現れである。黒田が都市景観を総体的に評し、建築を音楽的に評してから100年余り経つ今、「まちなみ」をリズムとハーモニーだけでなく、コール・アンド・レスポンスとして捉えてみたい。

第30回となった今年は、例年を超える計80点の応募作品の中から、一次審査により選出された20作品を対象に、より詳細な資料と動画、実物を確認した委員の意見も踏まえて二次審査の議論を行い、8点の受賞を決定した。既存の街並みや環境の呼びかけに、新たな建築及び構築物のデザインを通じて、どうレスポンスしたかという視点で受賞作品をご覧いただくと面白いかもしれない。



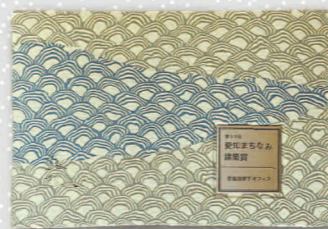
名古屋大学大学院 准教授

太幡英亮

| Eisuke Tabata

受賞作品

- 01 笹島高架下オフィス [名古屋市市中村区下広井町]
- 02 瀬戸永泉教会 [瀬戸市杉塚町]
- 03 あかばねこども園 [田原市赤羽根天神]
- 04 星野神社 覆殿【石場建て・伝統的構法】 [豊川市平尾町]
- 05 ホテルインディゴ犬山有楽苑 [犬山市大字犬山字北古券]
- 06 三菱UFJ銀行名古屋ビル [名古屋市中区錦三丁目]
- 07 東山元町ファサード [名古屋市千種区東山元町]
- 特別賞 08 一宮の路上建築群 [一宮市栄三丁目(銀座通りの道路上)]



練り込み技法による記念銘板

作/陶芸家 水野教雄

笹島高架下オフィス

ささしまこうかしたおふいす

名古屋市中村区下広井町



建築主 名古屋ステーション開発株式会社
 設計者 MARU。architecture
 施工者 シーエヌ建設株式会社
 概要 主要用途 事務所
 構造 木造
 階数 地上2階
 敷地面積 1,392.25㎡
 建築面積 567.60㎡
 延床面積 985.82㎡

名古屋駅からほど近い、新幹線高架下に建つ木造2階建てのオフィス建築である。建築と高架橋という2つの異なるスケールを調停するかのような多層的な佇まいは、新たなまちなみの解釈、そして建築文化の創造に寄与するものとして高く評価された。

本建築は、既存高架橋への構造的負荷・振動・騒音等に対応するため、既存構築物から構造的に切り離された木造建築となっている。その一方で、建築と高架橋の間に、様々なスケールを包含しながら補完し合う共存関係を構築している点が見事であり、ユーザーの想像力が設計者の意図を超えて展開していくような空間的可能性を有している。

高架橋は、我々の都市生活を支える必要不可欠な都市インフラであるが、時に人の身体や活動とは無縁であるかのようにふるまう。しかし、高架橋と相互に関係を築きながら成立する本建築は、人々の活動の新たな拠点となり、我々に都市インフラへの関わり方に対する示唆を与える。都市の空間資源を領域横断的につなぐこの建築形式は、今日的なまちなみに新たな諧調をもたらすであろう。

●船橋 仁奈 Nina Funahashi



1,2,3 photo/関拓弥(2022)

瀬戸永泉教会

せとえいせんきょうかい

瀬戸市杉塚町



1 photo/日紫喜政彦[スタジオヒシキ](2022)

瀬戸永泉教会は、瀬戸市の中心を流れる瀬戸川沿いの旧街道に面した小規模な教会である。

以前、この教会は旧街道沿いの住宅街の中にあつた事と、市内のメイン道路である国道に面していなかった事もあり、目立つ存在ではなかったと思われる。しかし、現在は国道の拡幅に伴い、瀬戸市のメイン道路としての国道からも認識できる存在となっている。

また、資料によると1900年に建設され、その後、改修や増築を経て現在に至った経緯がある。

今回の改修工事は、老朽化や耐震性の向上等が検討される中で復元年代が問題となり、時間をかけ協議された結果、最終的には現在の原形となった昭和初期の時代を基本とした改修工事が行われる事となり現在に至っている。

特に修復された窓及びそのデザインは、国内向けの陶器作りや輸出用陶器作りが盛んな頃に、市内でも鉄筋コンクリート造や木造でこのような形態の窓をとり入れた陶器関連の施設が建てられた時期でもあったと思われる事から、その影響を受け、このような窓の改修がされたのではないかと想像する。

いずれにしても、この教会は瀬戸のまちの歴史と共に改築や増築等を重ね、また、密度の高い今回の改修工事等を終え、現在に至った経緯などと共に、この教会が周囲の街並みを形成する一つのシンボルとなっている事も含め「愛知まちなみ建築賞」の主旨にふさわしいとして高い評価を得た建築である。

●安藤 春久 Haruhisa Ando

建築主 宗教法人日本基督教団瀬戸永泉教会
 設計者 株式会社 柳澤力一級建築士事務所
 施工者 株式会社 中島工務店
 概要 主要用途 教会
 構造 木造
 階数 地上2階
 敷地面積 598.89㎡
 建築面積 248.45㎡
 延床面積 314.95㎡



2 photo/柳澤力一級建築士事務所(2022)

01

02

あかばねこども園

あかばねこどもえん

田原市赤羽根天神



建築主 学校法人 正円寺学園
 設計者 名古屋大学 太幡研究室
 株式会社 藤川原設計
 武田計画室 ランドスケープ・建築
 施工者 小原建設株式会社 豊橋営業所
 概要 主要用途 幼保連携型認定こども園
 構造 木造
 階数 地上1階
 敷地面積 4,844.07㎡
 建築面積 1,895.79㎡
 延床面積 1,654.96㎡

計画地は住宅街やキャベツ畑に囲まれたややのどかな場所にある。敷地周囲は道路に囲まれ道路境界からセットバックされた部分にサクラ、モミジなどの四季折々の樹木が植えられていることから豊かな景観が地域に潤いを与えている。道路沿いのベンチなどが地域に開放され、敷地頂部には地域住民の拠り所となる広場が配置されていることから、住民や施設利用者からの楽しそうな会話も聞こえてきそうである。外構から園舎、中庭までの空間だけでなく人々の動線も含めて重層的に構成され、まるでグラデーションのように計画されていることは見事である。

一般的には園庭をフェンスが囲んでいるが、安全面を配慮しながら園舎が子どもたちを守りながら、閉じることなく開口部が周囲に開放されている。建築は小さな平家の住宅が連続しながら構成されていることから外観は街並みのように形成されとてもリズムカルである。

この園舎を通じてあらためて街並みを思うに、優れた景観形成ということだけではなく人々との触れ合いにつながる大切なのではないかと考える。

このあかばねこども園は地域より愛される建築になるであろう。 ●濱田 修 Osamu Hamada



2 photo/そあスタジオ (2022)



1,3 photo/ToLoLo studio (2022)

星野神社 覆殿【石場建て・伝統的構法】

豊川市平尾町

ほしのじんじや おおいでん いしばたて・でんとうてきこうほう



豊川市の中ほどに位置する既存の集落の中にある神社である。

南側道路から延長線に見通せる鳥居と拝殿や、神社を取り囲むような道路形状、境内の立派な樹々の効果であろうか、神社全体がひときわ存在感を示している。

そうした中、全国的にも数少ない七間社として江戸初期の姿を保つ本殿を、風雨から守るための覆殿が建替えられた。

新たな覆殿は、本殿を取り囲むように建てられた「覆い」そのものである。桁行12m、梁行7mと大空間でありながら、石の上に柱が載っているだけで建物と礎石は縁が切れている石場建てとし、集成材ではなく無垢材を使い、

金物による接合ではなく木組みで組み上げる等、様々な建築的な工夫がされているものの、なにより、妻側は板目を生かしつつ、平側は木組みを通して本殿を目にすることができる独特な外見は、目にするごとに、覆殿の中に守られている歴史を感じさせるだろう。

神社としての歴史、すなわち地域を見守り、地域の方が大切にしている風土や文化を、新たな覆殿とともに包んで守ることで、これまでの歴史を今後に伝えるとともに、これからの、全く新しい歴史が積み重ねられることを期待する。 ●成田 清康 Kiyoyasu Narita

建築主 星野神社
 設計者 望月建築設計室
 施工者 株式会社 望月工務店
 概要 主要用途 神社
 構造 木造(伝統的構法)
 階数 地上1階
 敷地面積 4,022.48㎡
 建築面積 95.65㎡
 延床面積 92.77㎡



1,2,3 photo/萩原ヤスオ (2022)



03

04

ホテルインディゴ犬山有楽苑

犬山市大字犬山字北古券

ほてるいんできいごぬやまうらくえん



1 photo/Forward Stroke inc. (2022)

建築主 名古屋鉄道株式会社
 設計者 株式会社 観光企画設計社
 施工者 ホテルインディゴ犬山有楽苑
 新築工事共同企業体
 (大成建設・矢作建設工業共同企業体)

概要 主要用途 ホテル
 構造 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
 階数 地上4階
 敷地面積 35,414.34㎡
 建築面積 4,898.75㎡
 延床面積 11,603.72㎡

本施設は建築・ランドスケープ・インテリアの工夫によって、地域の象徴である城と城山の景観を借景として取り込み、隣接する国宝如庵のある日本庭園 有楽苑を含む周辺地域との調和を取りもつ。周辺地域の様々な資質を、まとまりのある新たな空間として再編したデザインは選考委員会において高く評価された。施設は古くからあるホテル跡地を再生したものである。旧ホテルは敷地北を流れる木曾川に沿って建物が建ち、河岸の景観を重視していたが、新たなホテルは西にある国宝 犬山城とその城山に面して建ち、エントランスのあるメイン棟は水盤を間に挟んで犬山城を正面に見据える。この発想の転換の影響は大きく、

ホテル内からみて城と城山の緑、それらが水に映り込んだ象徴的な空間を得ることに成功している。南に隣接する有楽苑を含め、敷地全体に施された緑豊かなランドスケープは周辺地域と同ホテル敷地を一体化するようデザインされている。敷地内外を区切る塀はほぼなく、周辺の低層住宅地からみても違和感はない。サービススペースが来訪者からは見えないように設けられているのか、裏を感じさせない設計上の工夫は敷地外周を散策する魅力を高めている。 ●向口 武志 Takeshi Mukaiguchi



2



3 photo/Forward Stroke inc. (2022)

三菱UFJ銀行名古屋ビル

名古屋市中区錦三丁目

みつびしゆーえふじえいぎんこうなごやびる



1

計画地は、名古屋城に続く本町通と広小路通、錦通に面している。かつて尾張名所図会「広小路通夕景」として描かれ、この地方の人々に商業と金融の中心地として受け継がれてきた場所である。また名古屋市の景観形成地区に該当し、意匠、軒線、壁面の位置、まちの賑わい、周辺との調和などに配慮が求められる。

本計画は、周辺のまちなみとの調和を考慮した中層建物となっている。ファサードは高層、低層に分割され、隣接するクロスタワーと低層の軒線をそろえ、縦基調の外装のモチーフを連続させ、まちなみを創出している。セットバックした広小路沿いの植木のほか、すべての道路境界に低木、地被による緑化、一部壁面緑化がなされまちに彩りを添えている。

まちとのつながりとしては、広小路沿いに複数の店舗を配置し、賑わいを連続させ、本町通沿いは誰もが利用できる通り抜け空間を設け、貨幣・浮世絵ミュージアム、文化情報を発信するサイネージ、ATMコーナーがある。あえて本業である銀行営業窓口を2階に配置したことで生み出された空間である。まちに開かれた銀行のあり方を高く評価したい。 ●森 哲哉 Tetsuya Mori

建築主 株式会社三菱UFJ銀行
 設計者 N3計画 三菱地所設計・日建設計・伊藤建築設計事務所
 設計監理共同体
 施工者 大林組・徳倉建設・名工建設・矢作建設工業
 特定建設工事共同企業体

概要 主要用途 事務所・銀行・物販店舗・飲食店舗・展示場・駐車場
 構造 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨鉄筋コンクリート造
 階数 地下2階・地上10階・塔屋2階
 敷地面積 5,221.47㎡
 建築面積 48,671.36㎡
 延床面積 41,758.80㎡



1,2,3 photo/株式会社ナカサアンドパートナーズ(梅津聡) (2021)



3

05

06

東山元町ファサード

ひがしやまもとまちふぁさーど

名古屋市千種区東山元町



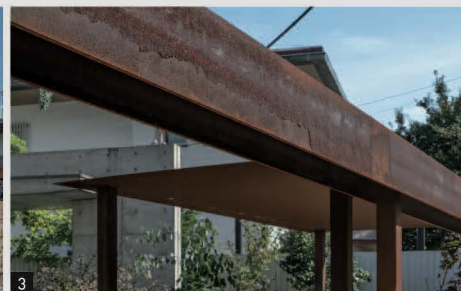
建築主 高津 伸生
 設計者 裕建築計画 + ランドスキップ
 施工者 株式会社 山富建設
 概要 主要用途 門塙
 構造 鉄筋コンクリート造 一部 鉄骨造
 階数 -
 敷地面積 -
 建築面積 -
 延床面積 -

この作品は東山丘陵の尾根筋を跨ぐように通された生活道路に沿って建つ塙である。新たに隣地を取得し間口が計50m程となった土地に対して、既存家屋を残したまま境界のみが作り直された。この境界はきつい斜面を造成した宅地であり、坂道と擁壁という景観へのインパクトの大きい要素が存在する。それらと向き合う表構えとして用いられたのは石と鉄。強固だが不変ではない素材が風化し朽ちて地形へ近づいていくことをイメージしたデザインである。目線を切る高さまで積まれた堆積岩の塙は擁壁との類比を感じさせ、塙上に間をとって水平に架設された錆仕上げのH型钢は坂道との対比を感じさせる。1970年代頃に

整ったこの境界においても建物の更新は進んでおり、まちなみはゆっくりと変化している。この作品は、敷地の表構えとしてはその領域を顕在化させる具象的な物体であるが、境界に対してはその全体の在り方を表す抽象的な活動体としてあり、それこそが本質と解釈できる。暮らしの滲出を超えて場所性の表出へと向かう取組として評価できるものであり、まちのまとまり感の熟成・継承につながることを予感させる。 ●夏目 欣昇 Yoshinori Natsume



1,2,3 photo/ToLoLo studio (2021)



3

一宮の路上建築群

一宮市栄三丁目(銀座通りの道路上)

特別賞

いちのみやのろじょうけんちくぐん



路上建築群の佇まいが確かにまちなみに潤いを与えているようで惹かれるものを感じた。一方で仮設的ファニチャーへの評価の立ち位置に対し、議論は大いに盛り上がった。社会実験であるこの作品がまちなみに対しどんな貢献をしようのか。そもそも路上には多くの規制がかかり、造作物を仕掛けるには高いハードルがある。個別の介入が簡単には許されない路上でのあり方をチェンジさせる。この作品にはそんな豊かなまちなみへとつながる示唆があった。

意匠面で見ると、多方向へ体の姿勢を促すベンチ配置や、ランドマーク的にそびえ立つ角材など、人間スケールから都市スケールまでを

統合する架構には建築的強度がある。まち由来の色彩を端部に施したり、メッシュによる光の操作など、ディテールにもまちなみへの彩りや環境性への意識が確認できた。そして期間限定設置の予定が、市民の高評価を得た事により現在まで延長設置されているという事実は、仮設的ファニチャーもまちなみ形成に貢献しようことを体現していると感じた。

こうした社会実験が現行制度に風穴を開け、はかなくも豊かな日常の風景になる。その契機になることを期待して、この作品にエールを送りたい。 ●谷田 真 Makoto Tanida

建築主 一宮市
 設計者 ambientdesigns (アンビエントデザイナーズ一級建築士事務所)
 施工者 株式会社エコ建築考房
 概要 主要用途 休憩施設(ストリートファニチャー)
 構造 木造
 階数 -
 敷地面積 -
 建築面積 -
 延床面積 -



2 photo/大竹央祐 (2021)



1,3 photo/ambientdesigns (2021)

07

08